

第Ⅲ期県立病院改革プランの実績概要

資料3

【主な経営指標】

(単位：億円、%、日、件、円)

区分	中央病院					厚生病院					
	H29	H30	R1	R2	R3	H29	H30	R1	R2	R3	
医業収支 比率 (%)	計画	96.8	99.1	95.0	96.2	87.4	95.8	94.4	95.1	94.0	90.3
	実績	95.5	96.2	86.5	86.7	90.0	89.5	94.2	94.7	90.9	89.3
	差引	△1.3	△2.9	△8.5	△9.5	2.6	△6.3	△0.2	△0.4	△3.1	△1.0
経常収支 比率 (%)	計画	105.4	106.3	102.4	110.9	100.7	105.1	103.9	104.3	103.2	115.8
	実績	103.9	105.2	95.3	98.8	103.4	99.3	104.0	102.4	115.2	117.3
	差引	△1.5	△1.1	△7.1	△12.1	2.7	△5.8	0.1	△1.9	12.0	1.5
純損益 (億円)	計画	4.27	1.66	4.84	0.34	2.16	0.57	△0.22	2.99	2.16	13.60
	実績	2.70	1.30	△12.80	△17.80	7.20	△3.00	△1.00	2.00	11.80	14.68
	差引	△1.57	△0.36	△17.64	△18.14	5.04	△3.57	△0.78	△0.99	9.64	1.08
病床稼働率 (%)	計画	91.8	88.1	88.0	91.2	80.1	89.0	89.0	89.0	89.0	77.3
	実績	90.4	85.5	80.2	77.2	80.6	83.4	81.6	81.4	71.9	74.2
	差引	△1.4	△2.6	△7.8	△14.0	0.5	△5.6	△7.4	△7.6	△17.1	△3.1
平均 在院日数 (日)	計画	14.0	14.0	14.0	14.0	12.5	15.0	15.0	15.0	15.0	13.0
	実績	13.9	13.6	13.1	13.3	12.0	15.0	14.4	12.9	12.3	12.1
	差引	△0.1	△0.4	△0.9	△0.7	△0.5	0.0	△0.6	△2.1	△2.7	△0.9
手術件数 (件)	計画	3,800	4,150	4,500	5,000	4,100	1,800	1,800	1,800	1,800	1,650
	実績	3,521	3,680	4,049	3,992	4,393	1,449	1,413	1,717	1,652	1,668
	差引	△279	△470	△451	△1,008	293	△351	△387	△83	△148	18
入院 診療単価 (円)	計画	65,426	66,251	69,562	69,673	74,394	49,320	49,320	49,320	49,320	58,630
	実績	66,073	68,602	69,218	73,172	78,096	48,664	52,264	54,804	60,085	58,994
	差引	647	2,351	△344	3,499	3,702	△656	2,944	5,484	10,765	364
外来 診療単価 (円)	計画	15,432	15,432	15,432	15,432	22,417	13,406	13,406	13,406	13,406	17,624
	実績	17,535	18,722	20,469	22,009	21,804	13,262	14,949	16,451	16,051	16,502
	差引	2,103	3,290	5,037	6,577	△613	△144	1,543	3,045	2,645	△1,122

※網掛けは計画を下回った項目。

○中央病院

- ・ 医業収支比率、経常収支比率、病床稼働率、手術件数等改革プランの主な数値目標について、達成していない状況が続いていたが、令和3年度については概ね達成することができた。
- ・ 診療密度の上昇等に取り組んだことにより、平均在院日数の短縮に繋がるとともに、手術件数が前年から約10%増加したことが、入院診療単価の向上に繋がったものと考えられる。
- ・ 外来患者数は、新型コロナウイルス感染症の拡大による受診控えから回復し、令和元年度の数を上回った。外来患者数の増増加が入院患者数の増加に波及することで、経営に好影響をもたらしていると考えられる。

○厚生病院

- ・ 令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響が続く中で病床利用率の回復が想定を下回ったこと等に伴い医業収支比率は計画にわずかに届かなかったが、全般的に概ね計画に沿った実績を残すことができた。
- ・ 特に平均在院日数は、診療科ごとに他のDPC病院との比較分析やクリティカルパスの見直し等の地道な努力の成果が現れたこともあり、過去5年間で最も短い実績を得ることができた。
- ・ なお、専用施設の整備など外来における化学療法に力を入れたこともあり、外来診療単価は過去5年間で最も高い単価となったが、抗腫瘍薬の後発品への切り替え等経営努力を重ねたことで、注射料が想定を下回り計画した単価には届かなかった。